

## 理学研究科

### 三つのポリシー

---

#### ❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

理学研究科では、自然科学・数理科学に関する深い学識を持ち、自立して研究活動を行い得る能力を持つ人材、及びその学術的素養を活かして社会で活躍できる専門的職業人を育成することを目的としている。

博士課程前期では、一定水準以上の学力があつて、かつ自然や数理の諸現象に興味があり、問題解決に向けて積極的に取り組む人材を受け入れる。特に成績優秀な学部学生には、3年次で飛び級制度、4年次では推薦入学制度を設けている。自然科学全般に関する広い見識の重要性から、他大学・他学部の学生や社会人・外国人留学生も積極的に受け入れる。

博士課程後期では、修士論文の内容の精査と面接審査等によって、探求心と目標とする研究を遂行するための能力の有無を見極め、かつ、問題解決に向けて意欲的に取り組む姿勢を評価する。また自然現象や数理の解明に興味を持ち、新しい考え方で研究を遂行する意欲のある社会人・外国人留学生も受け入れる。

#### ❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

博士課程前期では、「講究」・「実験」等の授業科目を通じて専門分野に関する知識や自然科学研究の実験手法を修得して、研究能力や自己表現力を涵養するようにカリキュラムを構成している。さらに専攻ごとに配置した多くの選択科目は、専攻内の他専修だけでなく他専攻からも受講できるようになっており、専門にこだわらない多面的かつ先端的な知識を修得できるようにしている。

博士課程後期では、前期課程の教育・研究をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な能力を備えた人材の育成を図る。このため、学生の学位取得に向けた自主的な研究推進と指導教員のもとでのゼミナールを重視し、加えて自然科学・数理科学に関する深い学識を身につけることができるよう、専門的な特修科目を設置している。

#### ❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

博士課程前期では、広い視野に立って深い学識を修め、専門分野についての研究能力又は専門分野に関わる職業に従事するのに必要な能力を有することを判断基準とする。修了に必要な授業科目の単位の取得に加えて、修士論文を提出させ、審査を行う。





博士課程後期では、研究成果が新たな知見を含み、研究者として自立して研究活動を行い得る能力又は自然科学・数理科学に関わる専門的な職業に従事するに必要な高度な能力を有することを判断基準とする。博士（理学）の学位授与には査読付き学術誌に一定基準数以上の論文が掲載されていることを基本要件としている。修了に必要な授業科目の単位の取得に加えて、博士論文を提出させ、審査を行う。

